

米国での第一回説法

李洪志

一九九六年十月五日 サンフランシスコ・ベイエリアにて

ここに座れば、皆さんは私のことが見えます。（拍手）

多くの人は遠いところからやってきたのであって、朝早く運転して来ました。現在、ここにすでに多くの人が法輪功を修煉しており、私も前からアメリカを見てみたいと思っていました。様々な理由で来る機会がありませんでした。今回皆さんとお会いすることができて、みな縁なのです。法輪功を修煉することができるのも縁によるものです。（拍手） ヒューストンで講演会を開き、もっと多くのアメリカの人に会うことを予定していますが、ここを経由しているのです、まず皆さんに会うことにしました。

いずれにせよ、皆さんのこの功と法に対する認識の深さはそれぞれ異なり、理解の深さも人によって違います。私が伝えているものは佛家の修煉法なので、佛家の話で言うと、得ることができれば、これが即ち縁なのです。今皆さんはまだこの法の貴重さを分かっていませんが、その貴重さが分かる時になると、自分がとても幸運であると感じるはずです。私が説いたこれらの理と皆さんの修煉を指導しているものは、千年来、百年来、公に説いた人はいませんでした。実は時間はもっと長いのですが、歴史上、かつて誰も説いたことはありませんでした。修煉のことに触れましたが、中国というこの特殊な環境の中で、歴史上、多くの修煉者がいたと皆さんは思っているかもしれませんが、実は彼らはまだいます。また、多くの修煉者は世界各地に分布しています。人気の少ないところにもずっと修煉している人がいて、しかもかなりの年になっています。彼らは世間に入らず、常人と接触していないので、常人も彼らのことを知らないのです。

現在の科学技術の発展につれ、人々がますますいわゆる現実を認識するようになった時、それはつまり人類の本当の歴史、本当の現実をますます多く捨てている時なのです。現在、人々がこれらのことを言っているとき、いつも神話を話しているかのようです。実はそうではありません。これらの正しい宗教と多くの古来の伝説は、なぜ数千年を経てもまだ伝わっているのか、きっとそれなりの理由があります。常人社会の中にも様々な自ら解釈することができない現象があり、私たちはそれに遭ったり、聞いたり、または自ら経験したりしました。現在の考え方と現在の科学の理論からそ

れを解釈することができず、これは科学が進んでおらず、しかもそこまで進むことができないから引き起こされた現象です。実は私に言わせれば、皆存在しているものです。現代人は科学を必要以上に信じていますが、この科学がそこまで進んでいないため、科学をもってこの次元を突破し、真相を認識するようにはならないからです

現在の科学技術が非常に進んでいると人々は思っています。実は宇宙の真実と比べれば、非常にレベルの低いものです。コンピュータが非常に進んでいると人々は思っていますが、実はコンピュータがいくら進んでいても、人間の脳とは比べることができません。人間の脳は人類にとって永遠の謎です。将来、多くの人が法を学び修煉することによって功が開き、悟りが開き、圓滿成就まで修煉するので、その時、相当ミクロ的なところとマクロ的なところから、生命、宇宙と物質を認識するようになります。

ご存知のように、物質はミクロ的な粒子からより一層大きい粒子を構成し、大きい粒子はまた更に大きい粒子を構成し、このように表面物質まで構成されています。つまり、中性微子がクォークを構成し、そしてクォークが原子核を構成し、次に原子に進んでいくという状況です。人間の最も表面で構成されたこの物質、この表面の分子粒子は皆異なる更にミクロ的な物質によって構成されています。現在の科学者はミクロ粒子の組み合わせ、顕微鏡から知ったわずかばかりの現象、分子と原子、さらに中性微子の存在だけを知っています。更に進むと機器でさえ観察できなくなるかもしれません。もし倍率が大きく、直径範囲の大きい顕微鏡があり、一つまたは幾つかの分子粒子だけを見えるのではなく、微粒子が構成したその次元まで見ることができれば、人間に他の空間が見えるようになります。長年、人間は今の考え方の枠を突破することができず、ミクロ粒子の点としての存在、幾つかの個体の観察だけを重視しており、この観念を破り、一つ一つのミクロ粒子をつなげてミクロ粒子が存在している面の全体を見ていません。これは即ち他の空間です。これほど簡単なのです。現在これらのことを突破することができず、今の技術ではできないことです。

先ほど言ったこれらのことは現代人の考え方と言葉で言ったのです。これは人間が知りたいことですが、人間に教えてはいけないことです。宇宙の本当の理を人間に明かした人はおらず、今まで人間に教えてはいけなかったのです。なぜなら、天の理から言えば、人間は非常に次元の高い天上から一步一步、常人社会、つまり地球に落ちてきたからです。修煉界ではダーウィンの進化論は認められていないのです。人間は猿から進化してきたものではありません。実は高次元の生命に見えたことと確かにまったく違うことです。現在の実証科学からの認識は人為的に多くの虚像を作ったのです

が、人類にそれを破る勇氣はありません。人間はこの非常に低い認識からいくらかの現実的な利益と科学の知識を得たかのように見えますが、実は人類、生命と宇宙を破壊しているのです。しかも、生命を向上させることもできません。これであっても、一部の人は権威のため、自分のいわゆる学問と知識が他人に否定されないように、学問と知識を守っており、人類が更なる高い認識を得られないようにしています。ですから、間違っていると分かっているにもかかわらず、感情からこのような理性的ではない行為を守っています。しかし、宇宙の真相は人間に封じ込められ、人間は自分を封じ込めてしまいました。修煉は人間を本当に高めることができ、修煉者は生命と宇宙の真相を見ることができ、接触することができます。

現在の人間が現代科学にあまりに封じ込められているため、これらの真相は全部迷信だと思われています。実は迷信であっても、科学者として、しっかりした考えを持っている人間として、なぜ迷信なのか、人間はなぜ迷信を信じているのかを研究すべきです。現在の人々はほとんどそれに触れる勇氣がありません。アメリカの環境では大分よくなると思います。多くの人にこの制限がありません。現在の実証科学によってもたらされた制限によって、人間は人為的に自分の考えを封じ込めてしまい、なかなか生命と宇宙及び物質の真相を認識することができません。

修煉することによって、宇宙の真相、特に佛法を認識することができます。しかし、現在の人々は現代科学しか信じておらず、それらのものは皆、神学、宗教の類のもので、科学ではないと思っています。実はこれこそ、人類が宇宙を認識する唯一の手段です。ご存知のように、アインシュタインは晩年、宗教を信じるようになりました。科学において多くの造詣を遂げた人々に思われている人の多くは最後に宗教に入りました。彼らは宗教の中で説かれた理が更にレベルの高い真理であると気づいたのです。人類の認識に限界があり、この限界を超えると、科学には成す術はありません。しかし、佛法は宇宙の中の全ての現象を説明することができます。彼らは神が説いたことこそ更にレベルの高い科学であると気づいたので、宗教に入ったのです。

もちろん、私は気功という形でこの法を皆さんに伝えていますが、実は中に非常に大きな内涵があり、歴史上誰も説いたことのないことであり、私は全部それを明らかにしました。『転法輪』という本を真剣に読めば、本当に貴重なものであると分かるようになります。中に多くの天機がありますが、表面を読んだだけでも、人々に大きなメリットをもたらすことができます。普通の人ならどのような人間として行動すべきかが分かるようになります。修煉したくない人には内涵の中のもの、『転法輪』の中の高次元の理を読み取ることができませんが、中には大きな内涵が含まれており、

人々はこれに基づいて圓滿成就まで修煉することができます。圓滿成就にとどまらず、生命を更に高い境地まで昇華させることができます。

ご存知のように、修煉は身体の鍛錬とは違います。人々の身体を鍛えるために功を伝えるのであれば、私はこれほど大きな法を説く必要はありません。私はほかでもなく、皆さんにこの法を得てもらいたいので、皆さんに宇宙の真相を教えたのです。つまり、あなたが修煉でき、更に高い次元を目指して自らを高め、あなたという人が昇華できるようにしたいからです。修煉の中であなたがこのようにすることができれば、この本はあなたを指導し、この目的に達することができます。しかし、修煉したくない人は本の中の内涵を読み取ることができません。なぜでしょうか？ 通常、この本を初めて読むとき、この本は人々に良い人間になるための道理を説いていると感ずるのです。二回目に読むとき、感じたことが異なり、これは修煉の本だと気づくのです。三回目読むとき、もし本当に続けて三回読むことができれば、この法をもう手放したくなくなり、時間があれば読みたくなり、これが天上の本であると分かるようになります。

皆さんも気づいたと思いますが、文学の角度からみれば、この本の文法と言語の構造はそれほど規則通りになっていないかもしれません。なぜなら、現在の文法通りの言葉は深い内涵を包容することができないため、私は規則を破り、規則通りの現代の文法を使いませんでした。しかも、中国語の方言も多く使いました。規則通りの言葉で説明することができないからです。更に、宗教の術語に属する言葉や、古来中国の民間に伝わっている修煉についての認識を表す言葉もあります。そのため、私は最も普通で分かり易い言葉、最もよく使う言葉と簡単な言葉を用いてこの大法を説きました。知識のある人もない人も、皆理解し、修煉することができます。しかし、中に含まれている道理は非常に深く、深いものです。

ご存知のように、私は人々に身体を鍛えるための気功を教えるのであれば、気功がどのように息を調整しているのか、どのように心を静めるのかのことだけを言えばよいのです。これらの方法だけで病氣治療と健康保持の目的に達することができます。もし高次元を目指して修煉しようとするれば、これらのものはちっぽけなものになります。なぜなら、これらのものは人々が高い次元へ目指して修煉することを指導することができないからです。皆さんの学校と同じように、大学に入ろうとするれば、小学校、中学校、高校の基礎がなければなりません。中学校の教科書を使って中学で勉強し、高校に行ったら高校の教科書を使い、最後に大学に入ったら、大学の内容を勉強しなければなりません。小学校の教科書を大学で勉強しても、あなたはやはり小学生です。

なぜなら、あなたは大学の内容を学んでいないからです。更に高い次元の法を学んでいなければ、上まで修煉することはできません。つまり、高い次元への修煉を指導するために、更に高い次元の理がなければなりません。

『転法輪』の中にこれほど次元の高い内涵がありますが、この本の表面からはそれが分からないのです。同じ話でも、向上してからもう一回読めば、元々の意味ではなくなり、他の意味になったと気づくはずです。きっとそうなります。如何なる本もこのような状態に達することができません。なぜなら、それは修煉の本ではなく、常人の理論に限られているからです。それに対し、この法は完全に常人の理論を越えており、大きな内涵を有しています。それが修煉だからです。佛家の言い方で言えば、常人のところから修煉すると言いますが、私はこれを世間法修煉と言い、人体の修煉とも言っています。この段階の中で多くの向上すべき方面の修煉が完成しなければなりません。人体修煉は以前の修煉の本の中で多く言及され、とても曖昧な書き方でしたが、皆この方面について書かれたのです。

この本が世間法での修煉しか指導することができなければ、あなたは三界を出ることができません。この本の中に人体修煉と三界の各次元での修煉に関する理、ないし三界外の理が含まれていなければなりません。修煉者はその次元の理に指導されてからはじめて、その次元に達することができます。ですから、更に高い次元の理に指導されてからはじめて、更に高い次元に達するのです。つまり、三界を越える理がなければ、あなたは三界を出ることができません。こういう意味です。今日私が伝えているこの法はほかの如何なる気功師が言っていることとも異なっています。それらの気功師は人間に病氣治療のことしか教えていません。私はここで、他の気功師はレベルが低く、良くないと言っているのではなく、そういう意味ではありません。誰もこのことを行なっていないと言いたいのです。しかし、現在私が知っている限り、私だけがこのことを行なっています。本を皆さんが読み、私が何をしているのかを多くの人が既に分かっています。中国、全世界で誰もこのように行なっていません。なぜなら、これは小さな問題ではなく、高い次元へ人を導いているのです。いったんこのように行なったら、非常に巨大な問題と関わるのです。

正法を伝えることは非常に難しいことです。ご存知のように、イエスは当時、正法を伝えたため十字架に磔にされたのです。釈迦牟尼も仕方なく涅槃の道を選びました。常人社会に多くの固定観念があり、各種の人間の勢力、宗教の勢力があり、多くの要素も各自の環境を形成してしまいました。これらの要素に正の一面がある一方、負の一面もあります。負の一面は即ち悪の勢力です。人類社会の全ての正しい物事の中に

負のものが含まれています。この負のものは人々に害を与え、人々を抑圧し、攻撃するのです。更に、政権と各種の手段を利用して人々を抑圧するのです。ですから、正法を伝えるのは最も難しいことです。悪い人が邪法を伝えることはかえって、誰も干渉しないのです。

佛は衆生が苦しいと思っています。イエスも自分の友だけではなく、自分の敵をも愛さなければならぬと言いました。なぜなら、彼らは衆生に慈悲深いので、世の人々を救済度するのです。修煉者として、個人の修煉において常人の中であなたに反対する人を愛することができなければ、佛になることはできません。確かにこの道理です。なぜなら、修煉者は慈悲でなければならぬからです。慈悲はつまり、常人の中の全ての恩讐を放下し、常人の全てに執着せず、常人の名利を求めないということです。人心を放下すべきです。修煉の中で常人の全てを淡泊に見るようになるので、常人から抜け出すことができます。

もちろん、ここで話した要求は少し厳しいかもしれませんが。なぜなら、私が伝えているこれは常人の中の普通の気功ではなく、本当の修煉だからです。しかし、気功と切り離すこともできません。なぜでしょうか？ 気功が高い次元になると、修煉になるからです。これは間違いのないことです。しかし、社会で伝わっている気功は皆修煉の中の最も低い次元のものです。身体の健康や、病気治療と健康保持のためのものであり、これ以上のものはありません。なぜなら、これは非常に、非常に難しいことであり、誰かが思い立ったらできるようなことではないからです。

非常に難しいと言ったのは、私がこれを伝えるのが非常に難しいことであって、あなたがこれを得たのも非常に難しいという意味です。在席の多くの人には縁のある人で、非常に大きな縁を持つ人もいるかもしれません。この全てになんら特別なこともなく、普通にこの法と出会い、普通にこの法を知るようになりました。または偶然にこの功を練習している人がいると知り、あるいは友人の紹介で自然に学ぶようになりました。常人という社会形式はほかでもなく迷いの中にあるので、突然、仙人が飛んできてこの法を学ぶよう教えてあげるようなことはあり得ません。こういうことはありません。なぜなら、このようになったら常人社会の迷いを破ってしまうこととなります。この迷いを破ってしまえば、悟りもなくなり、修煉も難しくなります。ですから、人間が接触した多くのことは偶然のように見えますが、それは偶然ではないかもしれません。

中国で、学習者にこんなことを話したことがあります。つまり、多くの人が普通にこの講習班に入って講義を受けたと思っていますが、実は幾世、ひいては十数世、数

十世の中でこの法を得るために苦を舐めたかもしれず、（拍手） あなたはそれを知らないだけです。この法のために命を落としてしまった人もいます。修煉の中で私は口をすっぱくして皆さんに善を勧め、皆さんを導いていますが、歴史上、皆さんが誰だったのか私は分かっており、この法を得るために皆さんは多くの代価を支払ったことも私に分かっているからです。私はこのように皆さんに教えなければ、皆さんに申し訳ないのです。

もちろん、私が話したことは少し分かりにくいかもしれませんが、かなりレベルの高い話をしています。実は人間はこの世で生きている間、人間の表面にあるこのわずかな現有の空間で起きたこの数十年のことしか知ることができません。しかし、人間の生命は人間の死によって滅びることはありません。地獄に落ちても、十八層の地獄に落ちてもまだ尽きることはありません。罪の大きな生命は更に低い次元へ落ちていき、消滅され、壊滅されてしまいます。人間が死ぬ時、分子で構成されたこの次元の物質身体から抜け出ただけで、本当の生命は人間のこの皮が息を引き取る瞬間に、体から離れてしまいました。人間は死ぬ前とても恐れています、皆さんに教えますが、まったく恐れる必要はありません。人間の意識がまだあるとき、怖く感じています。人間の意識は肉体の細胞で構成されたものであり、いったん静止の状態になった時、人間は再び生まれ、解脱したかのように感じ、興奮していて、しかも体が軽く、肉体の束縛もなく、考えは全部開かれます。一生の中で行なった事は一分前にしたかのように、ありありと目の前に浮かび、どんなに小さな出来事も忘れていません。なぜなら、生命の考えまで解脱したからです。その時、本当の自分が誰なのかが分かるようになり、一生の中で行なった事の良し悪しも分かるようになります。あたかも眠りから目覚めたかのようにです。

もちろん、私が言ったこれらのことはあなたが今まで聞いたこともないかもしれませんが、これが事実です。私はこの方面についてよく知っており、たくさん観察してきました。特に、病院で医者が患者を救っている時、患者が既に死んだのにまだ応急措置を取っていることを時々見ます。その人の元神が既に身体から出て行ってしまったのです。二つの時空の概念が違うため、他の空間は時間の速さ、空間の構成における差異において人間のこの空間とは違います。人体から解脱した時、一生の間に行なったことは先ほどしたばかりのことにように、ちょっと寝ただけのようです。佛もこのように人間を見えています。人間は迷いの中で認識がはっきりとしていないのです。人間の生命は短いものです。

この法は皆さんに伝えましたが、なんと言っても、皆さんは縁があってこれを得た

のです。既に法を得た以上、仕事の後の時間を利用して、この本をめくってみてください。私が先ほど言ったようなことであるかどうかを、皆さんはよく読んでみてください。そうでなければ、学ばなくてもいいのです。もし本当に真剣に読んでいけば、私が何も言わなくても、あなたはもうこの本を手放さないでしょう。なぜなら、あなたには更に高い次元の理が見えたので、読み続けるに違いありません。この本は常人の知識を超えています。誰にも佛性があるので、読み続けていけば、この本を大切に手放したくなくなります。

私はこの法を説いているとき、中国大陸の人の考え方で話しているかもしれませんが、それを本にする時も同じです。アメリカ人の考え方と物事に対する見方は世界のほかの国の人と違い、書かれたものの表面に現れた思考様式とそれに対する理解の程度において差がありますが、修煉の法理の内涵は皆同じです。如何なる地区と国、民族の人々もこの法を学ぶことができます。ですから、この本さえ読めば、皆同じです。皆さんは法を勉強する時、これらのことを重く見ないでください。誰もが理解できると思います。なぜなら、このことをするために、一日、二日だけで準備されたわけではなく、はるか久しい歴史の時期から既にこのことのために準備していたのです。

ご存知のように、常人社会に何らかの出来事が起きる時、偶然に現れてきたのではなく、それは天象の変化によるものです。人類の発展の歴史において、この按排がなければ、このことは歴史に決して現れることはありません。ご存知のように、無数の高級生命がおり、佛家は佛のいないところはなく、数え切れないほど多くいると言っています。しかも、形体を持つ神もいれば、持っていない神もいて、宇宙の中にあまねく存在しています。常人社会の多くのミクロ的な物質は、人々はそれを微量元素と呼んでも、空気中にある各種の元素と言ってもよいのですが、これは人間に認識できたことです。しかし、まだ人間に認識できていない更に更にミクロ的な物質があります。膨大な宇宙の中にあまねく存在している物質は皆佛性を持つ高級生命であり、この全ては人間を注視し、見たり、観察しています。ですから、人類社会に偶然なことはありません。

この大法が伝えだされた時、それは驚天動地の出来事で、現在常人社会でこういう現れはまだありませんが、他の空間では驚天動地なのです。歴史上、宇宙の本当の理を人間に説いた人はおらず、かつてなかったことです。ご存知のように、老子にしても、釈迦牟尼、イエスにしても、彼らはこの宇宙の法理の中の、自ら認識し悟ったその部分しか説いておらず、自らの認識しか話しませんでした。しかし、宇宙の法は無辺なのです。如来を超えた佛は計り知れないほどいます。これらの佛が認識している

法も非常に大きなものです。更に佛陀の次元をはるかに超えている無形の歴大な生命もあり、皆佛性を持っています。宇宙は人類が宗教の中で認識しているほど小さなものではありません。人類の認識は人類のこの社会に限られています。宗教が認識した宇宙は既に非常に大きいものだど人類は思っていますが、更に高い神から見れば、それもとてもちっぽけなものです。

私が説いた理は更に大きいものであり、しかもそれを人間に伝えました。これは確かに歴史上初めてのことです。私は人間の形式、人間の言葉で、最も次元の低い修煉形式をもって、最大の事を行なっています。今、言葉と環境の違いにより、アメリカと他の地域では法輪功を学んでいる人は中国大陸ほど多くはありません。中国大陸で学んでいる人の大多数は真に修煉しており、毎日修煉している人は一千万あまりいて、やっているかやっていないかのような人を含めれば、数千万人います。この法を知っている人は中国大陸で数億人います。法輪功といえば、誰もが知っているようです。しかし、この法が政治に参加してほしくなく、政治に参加するようなことをさせてはいけません。修煉のものが一旦政治に入ってしまうと、邪法になります。私たちはほかでもなく、民間で伝わっているだけで、正式な新聞や、公に大々的に宣伝さえもしていません。修煉している人は法輪功が素晴らしいと感じ、自ら他の人に勧めたというのがほとんどです。素晴らしいと感じた人が家族に勧める、という状況です。ご存知のように、法輪功が素晴らしいと感じていない人は家族の人に勧めるわけはありません。家族の中に良いと感じた人がいて、親戚、友人は皆勧められ学びにきました。このように、法輪功が民間で広がりました。私も最も次元の低いことから説き始め、徐々に次元の高いことに触れ、このように二年間説き続けました。そして最後に本当の法を二年間説いており、合わせて四年です。中国では、知らない人がいないほどです。海外でも大きな反響を呼びました。海外に修煉する人はまだいませんが、法輪功のことを聞いた人がたくさんいます。東南アジアでの反響はアメリカでの反響より大きいのであって、多くの国で補導站や法輪大法佛法学会、法輪大法学会が設立され、速やかに上昇している傾向が見られました。

ここで皆さんに教えますが、釈迦牟尼の話から言えば、今は末法時期で既にだめになった時期であり、つまり法がなくなったのです。釈迦牟尼は自分の法が末法時期になると、人を済度することができなくなると言いました。もちろん、多くの和尚も成就することができません。なぜならば、和尚はどのように修煉するのかが分からず、経書を理解することができず、経書の中の本当の意味を認識することができないので、修煉が非常に難しくなりました。現在学びに来ている人はとても多いのです。皆さんに教えますが、人類社会でどんな状況が現れても、偶然ではありません。これほどた

くさんの人が学びにきました。が、こういう天象がなければ、このことも現れないのでは
ありませんか？ 皆さんに教えますが、きっとその原因があります。

人類に相生相克の理があり、正しいものが現れると、きっと邪なものも現れてきま
す。他方では、現在社会で各種の邪教、多くの偽気功が現れてきました。表面では、
これらのことをする人がお金のため、名を売るためにやっているように見えますが、
実はその多くは邪な魔が転生してきて世を乱しに来たのかもしれない。釈迦牟尼は、
法を伝えていた時、人類社会が「五つの罪悪を併せ持っている」ことが見えたと言
いました。実は現在の社会はその時の社会よりも複雑で十の罪悪がそろっており、邪な
宗教もたくさんあります。

ここで皆さんに教えますが、私たちは決して宗教をやりません。学びたければ来て
よいのですが、学びたくなければ帰ってもよいのです。全てが自由意志によります。
もしどうしてもあなたに学ばせ、学びたくなければそれではならず、どうしても学ば
なければなりません。来たら帰さず、どうしてもここにいななければならないのであれ
ば、このこと自体は既に邪なことをやっているのです。正法であれば、その人が心か
ら学びたいと思わなければなりません。どうしても強制的に修煉させるのであれば、
その人が修煉することができますか？ このような人は決して真に修煉しないので
す。心から学びたいと思っはじめて、修煉できるのです。ですから、強制的にここ
にいさせることはまったく意味のないことです。私たちはこういうことをしません。
学びたければ学んでよいのです。学びたければ、私はあなたに対して責任を持ちます。
どれほど大きな縁があっても、学びたければ私はあなたに対して責任を持ちますが、
学びたくなければ、他の事をすればよいのです。

私がこの法を伝えた目的は、つまり素晴らしいことと福音を皆さんに伝えるため
です。皆さんの中の多くの方は確かに縁があって、この法を得るべき人であり、法を得
ることをずっと待っていました。人類は非常に乱れた時期に入り、社会全体の道徳は
墮落しています。多くの方が大きな劫難がやってくると言っていますが、皆さんに教
えますが、今は彼らが言っている大きな劫難はありません。しかし、人類にとってこ
のまま墮落していくことは非常に危険なことです。なぜ危険なのでしょう？ 皆さ
ん考えてみてください。現在の社会にいる人々は既にどのようになったのでしょ
うか？ 各種の墮落現象があまりに多くあり、数え切れないほどです。人間はなぜ人間
と呼ばれているのでしょうか？ 人間がこの世で生きていれば、人間の道徳基準と規
範がなければなりません。これがあってはじめて、人間であり得るのです。でなけれ
ば、人間と言えないのです。頭と四肢さえあれば、人間になるということではありま

せん。猿にも四肢があります。他の空間で人間に似ている生物は他にもたくさんいますが、それらは人間とは言えません。なぜならば、人間に人間としての行動基準と道徳基準、道徳規範があってはじめて、人間になるのです。もし人間が人間としての道徳規範を放棄し、人間の道徳基準がなくなり、動物のようになったら、天上の神は人間を人間として認めず、獣だと思ってしまいます。その時になると、人間にとって本当に恐ろしいことです。

なぜ恐ろしいのでしょうか？ 皆さん考えてみてください。ここは人類の空間であり、地球は神が人間のために造ったものであり、獣のために造ったものではありません。もしそうであれば、多くの良くない人は今どんな悪事でもやっていますが、こういう人は命の危険に晒されています。多くの善良な人、少しましな人も悪い人と一緒に墮落しています。今、ある人が修煉することができなくても、私はこの理を人々に教えれば、人々は目覚めるようになり、人類が今どうなったのかを認識し、これ以上墮落して恐ろしい結果にならないのです。

私が話しだすと、なかなか終わりません。私はいつもこれらの理を全部皆さんに教えたいと思っています。この後、ヒューストンの会議に出るので、ここで皆さんにお会いして、簡単に話をし、ついでに皆さんに会ってみただけです。（拍手） またこの法が本当に非常に貴重なものであると皆さんに教えたいのです。私は無償で皆さんに教えています。これは千年百年来、人々が知りたくても伝えられなかった、この上なく貴重な真の法なのです。人間よ、貴重なものを求める時、少しでも手に入ったら、ひいてはそれが一言であっても、あなたはそれを何よりも大事にし、一生忘れません。しかし、もっと貴重なものがやってきて、私がそれをそのままあなたに与えた時、かえってあまりにも簡単に手に入ったので、それを大事にしない人がいます。人間は往々にして簡単に手に入ったものを大事にしないという欠点を持っています。しかし、皆さんに教えますが、他に方法はありません。皆さんにあちこち私を探すようなことをさせてはいけないので、私はこの全てを皆さんに教え、皆さんに知ってもらい、もっと多くの人々に知ってもらい、もう一度縁を結び、このようにするしかありません。大事にするかどうかは皆さん個人のことであり、皆さんは既に縁を持っています。人間に分析する能力があり、この理が良いかどうかを自分で考えてみてください。私が思うには、皆佛性があり、自分で悟ればよいのです。（拍手）

遠いところから来た学習者がいるようで、皆帰りたくないですね。

弟子：先生、写真を取ってもよろしいでしょうか。

師：大丈夫です。

弟子：質問をしてもよろしいでしょうか？

師：このようにしましょう。時間を長くしてはいけませんので、後、三十分にしましょう。皆さんに解答します。皆さんに対してある要求があります。つまり、普遍性があり、本当に悩んでいる問題があれば、出してもよいのです。本を読めば解決できることであれば、出さないでください。たくさんの方がいるので、皆質問を出したら、二時間でも終わらないのです。どうですか？

弟子：質問を出してもよろしいでしょうか？

師：どうぞ、どうぞ

弟子：先生の本を全部読んだし、法も学んでいます。多くの友達や親戚にも教えました。彼らの多くは以前佛教を信じており、キリスト教を信じていた人もたくさんいます。もし今法輪功を学んだら、以前呪いを念じたり、教会によく行ったりしていましたが、これからもやって良いのでしょうか？

師：佛を修めることは、常人が思っている何かの学問ではありません。佛を修めることは非常に厳粛なことです。世の中にこれより厳粛かつ殊勝なことはありません。修煉に法門があります。佛教も不二法門を重んじています。佛教が末法時期になると、修煉が難しくなると先ほど私は言いました。なぜ修煉が難しくなったのでしょうか？この時、人間は既に経書の中の意味を理解することができなくなりました。特に現代の佛学の辞典の解釈は釈迦牟尼が当時説いた話とは意味が違います。例えば、釈迦牟尼佛が説いた不二法門とは、修煉の時、混ぜて修煉してはならず、同時に二種類、または二種類以上のものを修煉してはいけません。つまり、禪宗を学ぶ人は浄土宗を学んではならず、浄土を学ぶ人は天台宗、華嚴宗を学んではならず、華嚴宗を学ぶ人は天台宗、禪宗、密宗を学んではいけません。

なぜでしょうか？ 現在の方はそれが分からなくなり、佛であれば拝み、どの法門の佛かを問わず、全部拝みます。これは今日の和尚が修煉しても成就できないことの最も重要な原因です。実は、佛は一人一人、皆自分の天国を主宰しており、各天国に一人の如来がいます。例えば、薬師佛は琉璃世界を主宰しており、華嚴世界には華嚴

如来、蓮花世界には蓮花如来、極楽世界には阿弥陀如来がいる等等です。各如来佛は自分の修煉方法を持っていて、佛理の基点は皆宇宙の法理から悟ったものですが、各如来の認識と修煉方法はそれぞれ違います。なぜでしょうか？ ご存知のように、佛の能力はそれぞれ異なっていて、一人一人皆違います。この佛にこの能力、あの佛にあの能力を持っています。皆同じ境地にいますが、能力がそれぞれ違います。まさに皆さんが大学に入ったことと同じであり、あなたは大学生ですが、あの人も大学生です。あなたは理系を専攻としていますが、あの人は文系を習っており、他の人は農業や天文を勉強しています。それぞれ違いますが、皆大学生です。身につけたものと学んだ知識も違います。私は簡単にこの例を挙げて説明しています。

人間がある世界に行きたいと佛教の中で願を立て、「浄土の世界に行き、阿弥陀如来佛のところに行きたい。佛陀の衆生になりたい。または菩薩、羅漢まで成就したい」と願を立てたら、その法門で修煉し、阿弥陀佛の経を読み、阿弥陀佛だけを唱え、他の何の経も見えてはいけません。これは不二法門の修煉と言います。もし華嚴世界に行きたければ、『華嚴経』だけを読み、他のものは何も読みません。どれも佛理なので、人間にとって有益であると人間は思っていますが、これは人間が考えていることで、気をつけなければ乱れてしまいます。一冊の経書の中に最低の次元から高い次元までの修煉の全ての理が含まれていますが、人間の心が各法門を混ぜて修煉したほうが良いと思っているだけなのです。

この人類社会は現在封じられてしまい、人間を済度する全ての正神は人間を手放してしまいました。今の人間はあまりに良くないから、人間を見捨て、済度しないことにしました。先ほど、この法を伝えることはとても難しいとお話しました。多くの神と佛が法を伝えることを阻んでいます。彼らは今の人がもう済度することができず、残されることもできません。これらのことは人間に分からず、人間はまだこの人生が楽しいと思っています。現代の人は道徳において、以前の人とどれほどかけ離れているのか、天地の差がどれだけ大きいのか、神佛がどのように人間を見ているのか、天上はどれほど純粹かつ清らかなのか、佛はどれほど殊勝かつ偉大なのか、などのことは人間には分かりません。

人間は天人とあまりにかけ離れています。この世の空が澄み切っていると思いますが、これは人間がこの空間の物質で構成された肉眼で見ているからです。もし人間が高次元の空間から人類を見ることができれば、人類社会に黒い波が立ち込めており、人類社会の業力が非常に大きく、汚いと分かるようになります。ですから、人間に対する神佛の考えは人間が想像しているようなものではありません。神佛は人間に

慈悲深いので、人間を救っているのであって、佛が良いと言え、佛はあなたを救うのではなく、あなたが何かをほしがってれば、神佛はそれをあなたに与えるのでもありません。実は神にしても佛にしても、彼らは修煉の形式を重んじていません。宗教がいくら広く広められても、それは修煉ではありません。私は人間のために功を伝えているのであって、宗教を伝えるためではありません。神佛は宗教形式そのものを認めておらず、人間だけを認めています。

人間はいつも私が信じている宗教が本当に素晴らしいと言っており、まるで佛、イエス、天主を守っているようです。そうではありません。彼は宗教そのものに熱心であればあるほど、執着になっています。この心が強ければ強いほど、神から離れていきます。宗教は人間がやった修煉形式であり、宗教がいくら整っても、人間の修煉が完全なものになったとは言えません。人間は往々にして宗教に執着していますが、神佛はそれを見てとても心が苦しいのです。佛はこの世での形式を見ていません。帰依したり、洗礼を受けたりしましたが、心がまだ常人の心であれば、何の役に立つのでしょうか？ 神佛はこれらのことを見ておらず、あなたが本当に修煉しているかどうかだけを見ています。帰依しなくても、洗礼を受けなくても、ひいては線香も立てず、佛も念じなくても、神佛の要求に従って行ない、精進して着実に修煉していれば、佛はこれを見て本当に嬉しいのです。あなたが求めなくても、佛は時々刻々あなたを守り、あなたを見守り、あなたの修煉を助けています。こういう道理ではありませんか？
(拍手)

どうしても佛教の本や『聖書』、まじないを念じることを手放すことができないと言っている人がいます。放下できないのが宗教であり、佛ではありません。皆さんよく考えてみてください。今、宗教を信じているのはそういう状況ではありませんか？ 人間はなぜこれらのものを放下できないのでしょうか？ 自分の心の底にある根っこをよく掘り出して、その心はどのようにこの問題を認識しているのかを見てください。物事の表面を見てはならず、真に自らを修めることこそ本当に神佛を信じることです。佛もこのように見えています。彼らは宗教がどれほど大きく発展したかを見ているわけではありません。ご存知のように、歴史上多くの人々が修煉して成就しました。しかし、彼らは宗教を信じている人ではないかもしれません。多くの大徳のある人は宗教の中で修煉しているのではなく、いつも自分に厳しく要求しています。どのように良い人になるのかを考えており、確固として長期にわたってこのように行ない続けています。良く行なえば行なうほど、神は彼を見守り、彼は圓滿成就することができます。

私が説いた理は、いろいろ説きましたが、他でもなく良い人になり、さらに良い人、常人を超える良い人になることを皆さんに教えています。それをやり遂げることができれば、あなたは超常的な人になり、さらにそれを超えることができれば、あなたは更なる高い境地の生命になります。ですから、このような人は天上に行かずに、この世にとどまることがあり得るのでしょうか？ 人間は私のためのものであり、負けず嫌いで名と利を争っています。この世の人は既にあなたと同じではなくなりました。こういう道理です。どの宗教であれ、神がいったん手放したら、宗教は一種の常人の社会形式、社会での仕事となり、本当の修煉に実は影響はありません。彼らにこのように話すべきです。しかし、ここで修煉に対して厳肅かどうかの問題があります。専一に修煉してはじめて、本当の修煉なのです。学びたければ学んでよいのです。修煉に影響はありませんが、ここに修煉に対して厳肅かどうかの問題があると彼らに教えてください。何の影響もないことを教え、本を読めば分かってくれると思います。(拍手)

弟子：師父が教えてくださった五式の功法以外、手印もあるようです。つまり、師父がなさっている手印です。

師：まず手印についてお話します。手印は佛の一種の言葉のようで、一種の表現方式です。佛が何かを表現する際、言葉を使いたくないとき、手印を打ちます。佛と佛の間は思惟の伝達も使っています。私の法身を見たり、または佛と菩薩を夢で見たり、またはときにあなたに何か話しかけているとき、口を使っていませんが、声が聞こえてきます。これはつまり思惟で伝達しています。現代の言葉で言うと、声のある立体伝達です。多くの菩薩と羅漢に説法するとき、手印の方式を取る場合も多くあります。これは人間の手話ではなく、手話より神聖かつ純潔で、しかも威力が強大なのです。佛の言葉だからこそ、打たれた手印にエネルギーがあり、威力を持っています。佛より下の衆生にとって、佛から伝えられたものはつまり法です。しかし、手印は話すことと同じで、言葉がこのように組み合わせられてもよいし、あのよう組み合わせられても良いのです。また、一つの問題に対して異なる角度から話すことができ、固定しているものではなく、規範もないのです。しかし、具体的な煉功のときに使う定印もあります。手が印を結んで動かないという姿勢です。それは定印と言います。例えば、蓮花手印や煉功の時に結んだ定印は、全部定印です。動いている手印は固定している手印とは違います。私が煉功テープの中で打った手印は皆さんが煉功を始める前に、私が皆さんの分かっている一面、ほかの空間の衆生に説いたものです。ですから、皆さんはそれを習う必要はありません。将来、佛にまで圓滿成就したら、できるようになります。

弟子：李先生、今日すべての人に法輪を授けてくださるのですか？（拍手）

師：皆さんに教えますが、心から真に修煉さえすれば、ここで自分で本を読んでも、法輪を得ることができます。さらに、この本をくれぐれも大事にしてください。今はまだ認識することができないかもしれませんが、この本の中で説いたのは佛理なのです。修煉の中のすべての次元に関するものが、この本に全部含まれています。実はあなたの修煉を指導しているのは佛法です。修煉の中で佛、神はあなたを助けることがあります。皆さん考えてみてください。天上の各次元に誰が住んでいるのでしょうか？ 神々と佛ではありませんか？ さらに次元の高い佛、更に更に次元の高い佛、またそれよりも更に高い佛とその上の佛ではありませんか？ ですから、皆さんに教えますが、この本の一文字一文字の背後に無数の佛が重なり、重なっており、尽きるところに私の法身がいます。また、異なる次元で法輪が現れてくることもあります。なぜこの本を手にして読んでみたら、気分が良いと感じたり、業が滅せられたり、病気が治ったりする人がいるのでしょうか？ もちろん、修煉の中ですぐに業を全部取り除くわけではありません。一回目でそれほど多くの業を全部消すわけにはいきません。考えが昇華したら、さらに一部の業を消すことができます。このようにしたのは修煉の中であなたを高めるために行なったのです。ですから、この法の威力は本当にとっても大きいのです。皆さん考えてみてください。それなら、私が自ら法輪を皆さんに植え付ける必要がまだあるのでしょうか？ どのような人であっても、心から真に学び、修煉していれば、得ることができます。大法は全世界で広まっており、私は全世界のすべての人と会うことができないので、中国で講習班に参加した人だけが私に会い、ほかの多くの学習者は私に会ったことがないので、修煉の中で法輪を含める私が皆さんに与えたものがなくてもよいのでしょうか？ それではいけません。ですから、私は私の能力をこの本の中に加えました。修煉する人がいれば、その人が本を読めば修煉の中で必要なものを得ることができます。

現在、多くの学習者はあちこちに行って私を探していますが、私は彼らに会いに行きたくはありません。ここにある理由があります。つまり、彼らに着実に自分のところで修煉してほしいからです。私に会うと平静さを失ってしまう学習者がいて、そうすると彼の修煉を妨害してしまいます。私は彼らに心を静めて修煉してほしいのです。私が法を伝えるだけではまだ不十分で、あなたは法を得なければなりません。あなたに本を読み着実に修煉する時間を与えなければならないので、私はできるだけ学習者に会わないようにしています。私に会わなければ、私が伝えた法が皆さんに対して責任を持つことができないということであれば、私が行なったことは無駄になります。

ですから、本さえ読み、真に修煉すれば、得るべきものはこの法門の中で全部得ることが出来ます。必ずそうなります。（拍手）

千百年来、釈迦牟尼佛の弟子も師に会うことができず、経書だけにしがって修煉していたのではありませんか？ 真に修煉する人なら、この法はあなたに必要な全てを与えることができます。私があなたに法輪を与えても、通常の場合、法輪を見ることができないようにしています。何かをもらってから、はじめて修煉を始めるという執着を取り除いてください。

弟子：李先生、気功に偽物もあれば、本物もあるとおっしゃいましたが、それをどのように見分けるのでしょうか？

師：気功に本物もあれば、偽物もあり、常人にはとても見分けにくいのです。なぜなら、現在、人間の良し悪しを量る基準が変わったからです。本当に修煉したら、徐々に見分けることができるようになります。何を説いているのか、説かれたものが正しい理なのかどうか、または表面では善行を勧めています、本当のところお金のために人を騙しているのではないかと見ればよいのです。佛法の修煉はとても厳粛であり、決してお金に関わってはいけません。（拍手） この世のいかなるものも人間が利用して金儲けして良いのですが、佛法だけに限ってこのようにしてはいけません。その上、名のためにやっている人もおり、名と利は常人がいつまでたっても執着するのです。このような偽気功師は人々を邪道に連れ込み、人を済度することができないばかりではなく、かえって人々をだめにしてしまいます。

実は彼らの罪は軽くありません。もし根基の高い人が法を得るためにやってきたのですが、偽気功師にだめにされてしまったら、考えてみてください、これはどれほど大きな罪なのでしょう。金銭のためにこれほど大きな悪事を行ないました。この罪は「金儲けのため」という理由で逃れることができるものではありません。中国で気功が盛んになっていた時、その時の気功師のほとんどは無償で気功を普及していました。今出てきたこれらの偽気功師は大きく乱れています。しかし、出てきた当時とても良かった気功師もたくさんあります。彼らはみな副元神を修煉しており、彼の人間のこの一面は何も知らないのです。時間が長く経つにつれ、名利心が生じました。出ていないとき師父が彼を見ており、彼の副元神も彼を抑えていましたが、世に出て何かをするとき、人間のこの一面はもっとも世間の名利に惑わされやすいのです。いったんこれらのことを求めると、落ちてしまうので、功がなくなり、気功師自身も病気にかかってしまいます。

弟子：師父にお伺いしますが、学習者が圓滿成就したらどこにいくのでしょうか？

師：私に法輪世界があります。天国世界は非常に多くあります。これについて皆さんに説いてもかまいません。在席の中に常人の知識教養レベルが高い人が多くいるようなので、宇宙の概念を皆さんに簡単にお話ししたいと思います。

人間はこの空間しか知らないのですが、この空間も佛教徒が認識しているほど簡単ではありません。釈迦牟尼佛は在世中、宇宙の根本的な理から多くの真理を悟り証明しましたが、当時の人はそれを記録せず、経文の中にも収録されなかったため、世の人々に残されませんでした。釈迦がこの世を去って五百年後に、後人は経文を整理したのです。ご存知のように、五百年後、釈迦牟尼が当時何を話したのかを人間は正確に知ることが出来ません。これは今日残された経文であり、実は釈迦牟尼佛のもともとの話とはまったく違っています。しかし、まだいくらかの佛理があるため、人々は修煉することができます。これはこれまで人間に、これだけしか知られてはいけないということでもあります。この空間の衆生はこれしか知ってはいけないのです。

宇宙は佛教の経文に書かれたほど小さくはなく、昔の修煉の道士が言っているほど簡単なものでもありません。釈迦牟尼が当時、羅漢法を説いたのですが、この羅漢法は果位の中の最も低い果位です。釈迦牟尼はもちろん、更に高い次元の法を説いたことがあります。伝わってきたのは非常に少ないのです。釈迦牟尼は当時、如来佛がガンジス川の砂ほど多くいて、如来佛はそれぞれの天国を持っていると話しました。彼が言ったこの範囲は人間にとってすでに非常に大きなものになりました。実は、皆さんは分子がミクロ的な粒子によって構成されており、人間は分子と星の間に暮らしていると分かっています。実は、銀河系も宇宙の中の一つの粒子であり、幾重の銀河系によって構成された範囲も果てがあり、外殻があるのです。これは即ち、人類が言っている宇宙のことです。実はこれは小宇宙にすぎません。この小宇宙の外は何でしょうか？ 現代の科学は想像することすらできず、人間にこの概念さえないのです。宇宙はまったく大爆発によって形成されたものでもありません。

小宇宙からはるか、はるかに離れたところに小宇宙と同じ天体があります。神佛に次元があり、低次元の佛に高い次元の佛が見えないのです。更に高い神佛から見れば、これも非常に、非常に小さい範囲です。人間は探索しようと思っても不可能です。人間は光速を知っていますが、光の速度は最も速いものではありません。光は時間と空間の制約を受けています。時間と空間も宇宙の中の物質によって構成されており、光

を含む空間の中の全ても物質であり、各種の物質にみな、エネルギーがあります。皆さんは分子という空間で生活しており、空気や木のかけらや水や金属、土と石は全て、分子という次元の粒子によって構成されています。この次元にいる人間は分子が持つ放射エネルギーを感じることはできません。なぜならば、全ては分子という粒子によって構成されているからです。実は分子にもエネルギーがあります。人類の空間にある光の表面もこの次元の粒子によって構成されています。私が言いたいのは、異なる空間に異なる空間の光があり、それぞれの空間の光を構成する物質も異なり、時間と空間が異なっているため、光の速度も同じではないということです。更に細かく見ていけば、原子にエネルギーがあり、原子核はさらに強いエネルギーを持ち、中性子に原子核よりも強いエネルギーがあり、電子、クォーク、中性微子は順に放射性が強くなり、エネルギーが大きくなっていくのです。粒子が小さくなればなるほど、エネルギーが大きくなり、放射性が強くなるのです。本源物質まで至ると、そのエネルギーの強さは人間にとって言い表せないほどのものです。もちろん、人間は永遠に本源物質を知ることもありません。

先ほどお話したことは、つまりこの宇宙は人間が認識したものほど簡単ではないということを皆さんに教えたかったのです。宇宙に大きさの異なる宇宙がどれほどあるのでしょうか？ これは無量の数です。しかし、これはある小さな宇宙の体系で表現するとき、おおよそ三千の小宇宙はより大きな第二層の宇宙を構成し、三千の第二層の宇宙はまた第三層の宇宙を構成したと言ってもよいのです。このように推測していくと、人類にとっては無尽蔵であるため、天がどれほど大きいのか、皆さんに教えませんが、人類は永遠に天体の大きさを探測することができませんし、如来佛であってもできません。それはあまりに大きなもので、人類の現在の知識が認識したようなものではありません。

先ほどお話したことを皆さん考えてみてください。人類が現在所有しているこれらの科学知識はどれほどのものなのでしょう？ 「子どもレベル」であり、その上、現在の実証科学は人々を完全に間違った道に連れ込んだのです。実証科学は多くの虚像を作ったのです。このことは皆さんがまだ認識できないかもしれませんが、一例を挙げましょう。先ほどお話した宇宙のように、現在の実証科学は大爆発によって宇宙が形成されたと考えていますが、これは人々に虚像を作ったのではありませんか？ 人間は皆、このように認識してしまいました。実証科学は人間が進化の産物であると考えており、進化論は人間が猿によって進化されたのだと唱えています。まったくそうではありません。それならば、人々を間違った道に連れ込んだのではありませんか？ 人間の物質に対する認識も実は今のようなものではなく、基本的な認識から間

違っています。しかも、人類は虚像の中で、この認識によって封じ込められていて、ますます封じ込められ、少しの空間もなくなるほど自分自身を封じ込めたのです。しかし、この宇宙の真相はそれによって完全に隠されました。この環境で、皆さん考えてみてください、宇宙の真相に言及すると、科学はそれを受け入れられるのでしょうか？ 科学はすでにこういう環境を形成してしまったので、必然的に抵抗しており、さらに次元の高いことに言及すると、迷信だと言います。つまりそういうことです。

多くの人はそのため、ある固定観念を形成しました。前人が作り上げた法則や学説、たとえばアインシュタインの相対性理論ですが、人々はそれを科学の頂点だと思い込んでいます。後人はいずれもその中で物事を認識しています。さらに高いレベルのものを考えたり、研究の中でそれを超えようとする、すぐに「アインシュタインよりも有能なのか」と言われてしまいます。なぜでしょう？ 形成された現代の実証科学の物質環境は人々を制限しているからです。本当に造詣のある科学者なら、実証科学を越えたとき、それが真理ではなく、人々をかえって制限していると気づくのです。本当に造詣があり、考えのある人なら、それを突破する勇気があり、前人の枠組みを突破してはじめて、本当の造詣を手に入れるのです。（拍手）

弟子：師父の経文を時間順に並べなおしてもよいのでしょうか？

師：大丈夫です。経文という言葉に特別な意味合いがありません。経典、経文の元々の意味はつまり、人々が常に勉強する文章で、いつも読む文章のことであり、経常的な参照であるため、経と呼ばれています。

弟子：座禅のとき、突然豹が現れました。それはどういうことですか？

師：あなたが煉功しているから、妨害しにきたのです。恐れなくてください。誰もあなたを傷つけることができません。（拍手） 私はこのことを行なった以上、修煉者のために責任を持つことができます。このことに関して、皆さんは安心してください。多くの人が学んでいますが、問題が起こる人はいません。しかし、一つだけ気をつけてください。つまり、必ず自分自身を煉功者に見なしてください。あなたに恐れ的心があってはならず、恐れる心も取り除かなければならない人心だからです。

弟子：李先生、『中国法輪功』では第一式の功法を三回行なうようにと書いているため、皆三回やっています。それなら、「衝灌」と「法輪周天法」はなぜ三回ではないのでしょうか？

師：皆さんに教えますが、この功法に多くの決まりはありません。時間があればたくさん行なえばいいし、なければ少なくしても良いのです。今日時間がなく、第一式しかできなければ、それでも良いのです。時間がない場合、時に一つの動作しかできない場合、一つの動作だけやれば良いのです。時間があるとき、回数を多くすれば良いのです。ただ、九回目になったとき、それ以上やらないほうが良いのです。つまり、連続してやらないということです。このようにしたほうが良いと思います。私のこの法の修煉はほかの修煉とは違います。ほかの修煉は煉功のとき、煉功していることになりませんが、煉功していないとき、止まってしまい、動かなくなるのです。私たちの場合、二十四時間人を煉っており、法が人を煉っているのです。あなたは何のために煉功しているのでしょうか？ 私が植えつけてあげたそれらの機制を強めるためです。私はなぜ、機制に従い動くようにと言ったのでしょうか？ つまり、煉功の時、あなたの手のエネルギーが強くなり、修煉者はこの機を加持し、機が強く加持されればされるほど、機制の力が強くなり、機制は自動的にあなたを導いて煉功するからです。

弟子：法の勉強の最も良い方法は何でしょうか？ 本だけを読むのか、それとも、書き写しながら読むのか、または本を書き写すことなのでしょうでしょうか？

師：中国大陸で本を暗記する人も本を書き写す人もたくさんいて、また暗記できなくていつも本を読んでいるもたくさんいます。どの方法も良いのです。暗記できた人は何かの問題に遭うとき、すぐに法を思い出し、そう簡単に悪いことをしないで済むのです。本を書き写すのも認識を深めるためです。いつも本を読むことも認識を深め、絶えず向上するためです。

弟子：先生、私たちはあなたのことを先生と呼ぶことがよくないと感じています。先生という呼び方はあまりに普通なので、先生と呼ぶようにとおっしゃったのは大陸の状況を考慮したからではないかと思っています。ここで、「師父、こんにちは」と言わせていただきます。以前、佛を学んだ人は皆、上に先生ではなく、師父がいると感じています。

師：ありがとうございます。実は呼び方は何でも良いのです。先生、師父、名前いづれも結構です。

なぜ呼び方は何でも良いと言ったのでしょうか？ 現在の社会はそれらの正しく

ないことによってひどく乱されたからです。自分のことを佛と自称したり、活佛や大師、教主と呼ばせたりする人がいて、いずれも名利のためではないでしょうか？ 私は何を呼んでもいいと言っていますが、先生と呼んでも何も支障はありません。私はこれらのことを気にせず、求めてもいません。もちろん、学習者として先生に敬意を持ち、先生が本当に私たちを済度しており、助けていると思い、呼び方にこだわりたいのであれば、それは皆さんのことであり、私は先生で十分です。

弟子：もう一つのことですが、先ほど先生はお金のために行なってはいけないとおっしゃいましたが、それこそが本当の佛と感じました。もちろん、先生は本の中で自分が佛だとはおっしゃっていませんが、今まで佛教を学んだときにもこのような本当に指導できる次元の高い師に会ったことがありません。ですから、ほかの人に、「どこでお金を求めずにあなたの修行を指導する師が見つかるのでしょうか、さらにあなたのために業を滅してくれて、このような師に会ったことがありますか」と言っています。なぜ今この話をするのかというと、先生が本当に私たちの修行を指導しにこられたと感じたからです。今まで習ったことをすべて捨てます。在席の中に佛教を習っている人や、居士や、他のものを習っている人もたくさんいると思いますが、これから私たちの師を本当に私たちの修行を指導する先生と見なし、他のことをもうすべきではないと思います。もちろん、他の人のことを指摘するつもりはありませんが、少なくとも今日先生がいらっしゃって、先ほどのことを長年から今日お話したいと感じています。

私は生涯、高い次元へ目指して修煉しようとしていますが、ずっと見つかりませんでした。密教やほかの気功を習ったこともあり、大師に弟子入りしたこともありますが、弟子入りしても私はやはり元の私であり、何の変化も感じませんでした。しかし、先生の法を聞いてから、これが佛法だと分かりました。ビデオの説法の初日のとき、先生は「本当に修煉さえすれば」とおっしゃいましたが、私はテレビに向かって、本当に修煉すると言いました。しかし、先生にアメリカに来て頂きたいと思っています。在席の皆さんも先生がいらっしゃることを期待しているので、ロサンゼルスで佛を修煉するときには何に気をつけるべきかを、先生にもう少しご開示とご指導をお願いできればと思います。これが私からのお願いです。（拍手）

佛を習っている居士がたくさんいますが、それらのものが放棄できなければ、私たちもその人を助ける義務があります。しかし、あることについて直接、先生にお伺いしたいと思います。つまり、ある人は以前、佛を習っており、長年経を読み佛を拝んでいました。彼は以前の佛経を読むと、香りを感じますが、法輪功を読むと、異臭を

感じると言っています。今日、先生がいらっしゃるので、私自身は何も分からず、見えないし、先生にご指導をお願いしたいと思います。

師：分かりました。実は、末法時期に本当の佛は世間のことに関わらなくなりました。しかし、多くの靈氣を得た動物は佛像に上り、人を拝ませ、供養させ、人にわずかな恩恵を与えています。人間がいったん、本当に自分を修煉しようとなると、それらのものは妨害してきます。たとえば、ある功を練習すれば、香りを感じると言っている人がいますが、実はそれはイタチが放った匂いです。二つの空間の匂いが違うので、こちらではいい香りですが、ほかの空間では臭い匂いです。人間世界の理は逆になっているため、すべても逆になっています。人間が嗅いだ香りは実は、佛は臭いと思っています。そういうものがあなたに大法を学ばせないために、わざとその匂いを放ち、妨害しているのです。

サンフランシスコの学習者は自分のところだけを見ないで、全米を見たほうがいいと思います。どのように修煉するかのことについて、やはりこの形式を保つことです。私が今日、このように行なったのも後人に残すためです。でなければ、私は廟に入り、出家してしまいます。出家してはならず、宗教はすでにさらに多くの人に法を得させることができなくなりました。私はこの形を取って人々に修煉させているので、皆さんもこの形を守るべきです。この法門に入ったから、たくさんの規則や戒律が言い渡されるのであれば、それではいけません。学びたい人に認識の過程があり、良いと思ったら本を読んでください。認識が高まったら、本人が自発的に自らより良くなるようになります。宗教の居士はまだましですが、和尚は最も気の毒です。宗教の形式は彼らを完全にさえぎってしまい、彼らは法に接触することができず、接触する勇氣もありません。

弟子：先生に二つのことについてお聞きしたいと思います。一つは、今日先生は縁があってこちらにいらっしゃって、皆さんにお会いされました。先生は皆さんに縁があるとおっしゃいましたが、私たち学習者のレベルはどういったものなのでしょう？ 私たちは全員、円満成就できるのでしょうか？

師：在席のすべての人、子供も含めて、皆さんに教えますが、修煉さえすれば、私が按排したこの道の最後はいずれも円満成就なのです。（拍手） 喜ぶのはまだ早いです。修煉は師父が入り口まで導きますが、修行はやはり自分自身にかかっています。私は按排してあげたので、あなたを守り、加持し、各次元で功の昇華を演化してあげますが、心を修めるとき、やはり自分自身にかかっています。この心がトラブルや関

門に遭ったとき、我慢できるかどうか、乗り越えられるかどうかは、完全に自分自身にかかっています。もちろん、どうしても乗り越えられないとき、あなたに悟らせませんが、もっとも厄介なのはあなたの考えが極端に走り、悟らず、いくら悟らせても悟らないことで、それならとても難しくなります。関門を乗り越えられないとき、耳障りなことを聞いたとき、それは本当に私の法身が耳障りな話であなたを刺激し、あなたに教えているのだと皆さんに教えたのです。関門を乗り越えることはとても難しいのですが、乗り越えてから振り返ると、実はその関門は大したことはありませんが、当時はなぜかどうしても執着してしまいました。本当に乗り越えてきたら、心性も高まり、業も滅せられます。必ずこのようになります。もしこの関門を他の人が作ってあげたものなら、その人はあなたに徳を与えることになります。ですから、皆さんに教えますが、苦を嘗めることは悪いことではありません。人間だけが苦を嘗めることが悪いことであり、苦を嘗めていれば幸せではないと思っています。修煉者として、苦を嘗めることは業を滅するだけではなく、次元を高め、円満成就もできます。どうしてもこの世で幸せになりたいと思い、少しの苦も嘗めたくなく、心地よく修煉していればいいと思うなら、業を滅することも心性を高めることもできず、円満成就もできません。つまり、こういう道理です。

このように話し、法理もはっきり説きましたが、苦を嘗めるとき、やはり耐えられないかもしれません。以前皆さんにある真理を教えました。佛はなぜそれほど大きな福があるのでしょうか？ 本当に福寿両全なのです。それは彼が嘗めた苦の大きさに相応した福だからです。今日、在席の皆さんにそれほど大きな苦を嘗めさせたら、誰も円満成就できません。実は、皆さんが本当に修煉し続けさえすれば、多くの業力は師父が滅してあげます。やはり先ほどお話ししたことですが、この法を得るために、皆さんは多くの世で苦を嘗めていたかもしれません。多くの方は確かに法を得るためにやってきたのであって、ずいぶん前から苦を嘗めていました。皆さんは今どこが足りないのでしょうか？ その常人の心を取り除くことが足りないのです。私が言った苦もおもに、心を取り除くときの苦を指しています。